

第1回社会保障制度における妊娠・出産のあり方検討会

21・10・24
日産婦医会会議室

第1回標記検討会が、今村会長特別補佐が世話人となり、当日土曜日の午後2時から日産婦医会会議室にて開催された。出席者は、常務理事会メンバーであり、その趣旨は平成21年5月29日保発第0529009号「出産育児一時金等の直接支払制度の取扱いについて」の第四にある「平成23年4月1日以降の出産育児一時金制度については、妊産婦の経済的負担の軽減を図るための保険給付のあり方及び費用負担のあり方について引き続き検討を行い、検討結果に基づき所要の措置を講ずることを予定しているものである」を踏まえ、日産婦医会の見解等を明らかにしておこうというものである。

まず、寺尾会長から先の日産婦医会学術集会鹿児島大会での講演資料「産科医療に対する報酬はどうあるべきか」のプレゼンテーションがあり、次いで翌25日、中日新聞に掲載予定の「子どもは国の宝、国家補償で環境づくりを」で紹介される内容、10月16日付けで長妻厚労大臣宛に日産



婦学会理事長名で提出された「出産育児一時金制度の抜本的改革に関する要望書」との関連、そして主題である現金給付と現物給付の考え方などについて、活発な議論が交わされた。

日産婦医会としては当面、出産に対する国家扶助を求めていくという基本姿勢に立って、今後の本検討会を継続していくということで合意をみた。

コヒブレーク



ワクチンあれこれ

HPV ワクチンが近々発売される。1980年代にドイツのハラルド・ツア・ハウゼン教授（2008年ノーベル生理学医学賞受賞）等の研究成果がワクチン開発に結実したと言える。今年の年末にGSKの二価ワクチン、来年度中にMerkの四価ワクチンが発売予定と聞く。10月16日厚労省はGSK「サーバリックス」を正式に販売承認したが、同日、日産婦学会、日本小児科学会などは厚労省に対して、「11～14歳女子への接種を優先し、その接種費用は公的負担とすべき」との提言をしている。

小生は数年前から患者に、「子宮頸がんはワクチンで予防できるようになるよ。女の子がいれば打つと良いね。男性と関係する前が効果的だから中学生頃に打つワクチンだよ」と帰り際にポスターを見せながら説明している。反応も良く、「子供にはどう説明するの？ 回数？ 費用は？」と聞き返す患者も多い。「セックスでヒトパピローマウイルスが男性からうつるためとの説明は難しいね。将来子宮がんにならないためと言えればそれでも良いのでは。3回打つんだ。費用は外国では1回が120ドル程度なので、日本は多分1万5千円はしそだね」と言うと、「そんなに高くは無理よ」との返事、すかさず「外国には無料の国もある。日本は髄膜炎防止のHibワクチンも世界に遅れること15年、公費補助をしている市町村はわずか、日本の接種品目は北朝鮮やアフリカ並みでワクチン後進国なんだ。公費補助があれば打つ方も増えるのだが」と答えている。

私事で恐縮ではあるが、家内が20年前から自宅隣で小児科クリニックを開設している。同一建物内に産婦人科を55歳で開設した。開業当初、小生は暇で家内は多忙だったた

め、予防接種を押し付けられた。多くの産婦人科医も乳児健診時に3種混合ワクチン等をしているが、病気にかかる小児科へ行くため、その後は小児科で予防接種を受けることが多く、産婦人科の予防接種は片手間の仕事になりやすい。しかし、開業医8年目の小生は毎日十数名の予防接種をさせられている。

接種のコツは、①26～27Gの細めの針を使用し注射器と針との接続をしっかりと確認（27Gは痛くないが、注入時に針が外れやすい）、②親と子供は向かい合わせて抱き合っただけでしっかりholdし、看護師が子供の腕を固定（片肩を前方に出す体位は暴れた時に不安定）、③兄弟接種時は用意するトレイを別々にし、打つ前にワクチン名と量を発声し看護師・家族共々再確認（誤接種防止）、④接種後の絆創膏やパッドは使用しない（かぶれやすい）、⑤パンフレットを渡すだけでなく、効果・副作用・接種間隔等もかいつまんで説明、⑥厚労省の予防接種ガイドラインに従って30分近く専用待合室（アニメを流し絵本やパソコンも有り）でショックや蕁麻疹が起きないことを確認、等である。

先日、インフルエンザウイルスで有名な北大獣医学研究科喜田宏教授の講演を拝聴した。「安全性を重視した国産スプリット型ワクチンは水のようなもので、老人の死亡率を改善する程度の効果しかない。外国製全粒子ワクチンは副作用が強いので日本人向きではない。輸入しても接種者は少なく結局捨てることになるのでは。5月の時点でブタ由来インフルエンザウイルス（H1N1）を混ぜて季節型ワクチンを作るべきと提案したが厚労省には無視された。本当に効くのは粘膜に噴霧する生ワクチン」と本音を吐露され、啞然としながら会場を後にしたのは小生だけではないであろう（追記：アエラ10月26日号に「国産ワクチン水みたい」の記事を発見）。（広報委員・鈴木 正利）